

(5) 養護教諭部会

会 長 西森 希美 (西土佐小学校)
副会長 田野 ももこ (中村南小学校)
事務局 西森 希美 (西土佐小学校)

1. 研究主題 「児童・生徒の実態に基づいた保健指導をめざして」

2. 研究経過

実施月日	研究のあらまし	会 場	備 考
令和4年 4月21日(木)	・全体会 (研究体制とテーマの決定・連絡・確認事項) ・グループ研究 (研究体制・研究テーマ・計画等)	四万十市立 武道館	17名
5月10日(金)	四万十市教育研究会組織総会 ・全体会(研究計画)	中村南小学校	17名
6月23日(木)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究	四万十市立 武道館	17名
7月12日(火)	・小学校100人以上グループ (校務支援システムについて)	各校リモート 参加	4名
7月29日(金)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究	四万十市立 武道館	17名
8月 2日(火)	・小学校100人未満グループ (指導主事より講話)	利岡小学校	10名
8月26日(火)	・小学校100人以上グループ	中村南小学校	4名
10月17日(月)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究	防災センター	17名
12月 6日(火)	・全体会 ・グループ研究	四万十市立 武道館	18名
令和5年 1月17日(火)	・全体会 ・グループ研究	四万十市立 武道館	20名
3月 6日(月)	・全体会(今年度の反省) ・来年度の研究体制について	四万十市立 武道館	20名

3. 各グループの取組

(1) 小学校100人未満グループ

①研究テーマ「性と生の学習」

②研究内容

- ・研究のグループ分け(二次性徴、命の学習、心の教育)
- ・各学校や養護教諭が性教育を行う上での課題や現状の情報共有
- ・高知県保健体育課廣田志保チーフによる性教育の進め方の研修
- ・四万十市の高校と連携した地域の性の課題の共有

(2) 小学校 100 人以上グループ

①研究テーマ 「 養護教諭の職務の充実を目指して

～ 校務支援システムの活用について ～ 」

②研究内容

- ・校務支援システムの機能の確認
- ・校務支援システム入力方法のマニュアル作成

(3) 中学校グループ

①研究テーマ 「 中学生の基本的生活習慣についての研究

～ 自己コントロール力をつけるために～ 」

②研究内容

生活習慣の改善のためにメディアの使用を自己コントロールできる生徒を目指して、令和 2 年度から取り組み、今年度は発表の年となった。これまでの取り組みから見えてきた現状や課題の土台として、発表用パワーポイントや発表原稿を作成した。

4. 今年度の成果と課題 (○…成果 ●…課題)

(1) 小学校 100 人未満グループ

- 廣田チーフによる研修から、性教育の実践に向けての資料や情報を得ることができた。
- 各学校での取り組みや養護教諭自身の課題を共有することで小規模校での取り組みの課題意識を持つことができた。
- 高校と連携するきっかけができた。
- 今年度は情報収集が主だったため、まだ実践に向けての課題が残っている。
- 実践に向けて各校の時間の確保や高知県の性の事業を活用した外部講師による指導や連携を今後充実し、共有していく必要がある。
- 教職員や保護者への性教育のアプローチの方法も課題。

(2) 小学校 100 人以上グループ

- システムの機能を探りながら、通常業務内での必要な操作方法の意味理解ができたことで、仕事効率に繋がった。
- 自分たちの困り感に適したマニュアルを作成することができた。
- 大規模校 4 校一斉に、各校バラバラであった健康の記録を廃止し、校務支援システム内の「健康診断結果通知書」に変更したことで、転記する時間が削減され、転記ミスを防ぐことに繋がり、仕事効率を上げることができたのは非常に大きな成果であった。
- ヘルプデスクにシステム改善の要望を数件行うことができ、今後の検討事項として受け付けてもらえた。(改善された要望：2 件有り)
- システムからの印刷物を緑色の用紙で固定することで、教員、児童や保護者に“保健室からの大切な手紙”であるイメージを定着させることもできた。
- 当初より懸念されていた健康カードの活用については、4 年生の保健学習で使うことがあり、別の作業が必要になった。
- 2 学期に行う発育測定と視力検査の日程が約 1 ヶ月後になるため、発育結果と視力結果の通知書をいつ頃保護者にお知らせすれば良いのかで迷いが生じることがあった。
- 健康診断の打ち込みは年 1 回の作業であるため、今後マニュアルの改善が必要になる可能性がある。

(3) 中学校グループ

- 昨年度、授業実践したことで継続しやすい雰囲気ができ、今年度も授業を行うことができた。
- 「県養護教員前期研究協議大会」で問題提起をしたことで、現状や課題について情報交換ができた。

- 「学校医・歯・薬・保健研究大会」で実践発表をしたことで、中学生の状況や課題を共有し、理解してもらう場となった。
- 自己コントロールの大切さは理解しつつもメディア機器を生活から切り離せず、行動変容までには至らない生徒が多い。集団のみならず個に対する指導を充実させる必要がある。
- 科学的な根拠に基づいて生徒を指導していくことや、保護者と一緒に学ぶ場の設定、小中の連携等が今後は必要になってくると思われる。

